

令和6年度 栄中学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：33007

実態	「学ぶ力」	
	これまでの 成果	課 題
	◇札幌市全体の共通指標から「疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている」の肯定的な回答が札幌市の平均よりも高い。 ◇行事や教科、様々な場面でICT端末を活用してきたことにより、端末を使って自分なりに調べたり、勉強がおもしろいと実感したり、交流を通して気づいたことを自分の学習に取り入れようとしたりする生徒が増えていることが、ICT活用アンケートから明らかになった。	◇札幌市全体の共通指標から①「自分の意見を進んで発言しようとしている」や「振り返りを通して、自分の伸びや成長を感じることがある」、②「自分で計画を立てて勉強している」、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」の項目において、肯定的な回答が札幌市の平均よりも少し上回っている。①②においては、生徒に意識付けられる取組を工夫し、肯定的な回答を更に高められるようにしていきたい。

「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題

◇札幌市全体の共通指標アンケートでは、相互承認に関連する5項目において、いずれも肯定的な回答が札幌市の平均と比べて高かったが、「自分が必要とされていると感じる」の項目は他の4項目よりも15%以上低い。他者から承認される喜びや大切さを感じながらも、自分のよさや可能性に気づいていくことが課題である。道徳を含めた教科や、総合的な学習の時間、特別活動等の全教育活動において、子どもが主体的に参加できる交流活動や体験活動などを積極的に取り入れる取組が必要である。

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

意欲的に学び、高め合いながら、深く学ぶ力

取組	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
	◇研究テーマ「意欲的に学び、高め合いながら、深く学ぶ生徒の育成」 ～基礎・基本の確実な習得の上に立って、自ら考え協働的に学ぶための授業づくり～ →生徒の対話が膨らむような課題の設定や導入の工夫 →生徒が履修知識を活かしながら、言語を用いて思考を表現する学習活動の場の設定 →他者との対話や自己対話など思考が深まる学びの場面や、考えをまとめ発表する場面での効果的なICTの活用	◇よりよい学級・学年集団にするための活動の充実 →学級のルールづくり 班長会議 一人一役の係活動 学年の委員会活動 ◇生徒会活動の充実 →行事や委員会活動、学校生活において、生徒が主体となり、自分たちの問題を自分たちで解決し、自分たちの意思・行動で実現する ◇小中交流、地域行事やボランティア活動の参加 →母校訪問や生徒会・児童会交流（おはプロなど） →地域とのコミュニケーションを通して、大人が子どもの「～したい」を支える

〈本プログラムの実行に向けて〉

